00201

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 宮永恵美　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、東日本大震災がおきた時、まだ、保育園の年長組でした。その時は卒園式の前で卒園式が出来るか心配でした。だけど少しおくれたけど、卒園式は、やる事ができました。地震がおきてから、しばらくしたら、ぼくのお母さんがむかえに来てくれました。その時は、安心しました。その後にお母さんと、お兄ちゃんを学校まで、むかいにいきました。学校の校庭は、深くひびがはいっていて、校舎は少しくずれかけていました。そして家の近くの道路は、ひびがはいっていました。ぼくは、それを見て悲しくなりました。家でも、こわがりながら、すごしていました。

五年をたとうとしている今でも、たくさんの人が悲しみつづけています。だから、ぼくは、そのような人達をはげましてあげたいと思います。だからそのためにも、ぼくは、東日本大震災の事は、あまり考えないようにしたいと思います。

（20文字 × 20行）

00202

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 薄井小鹿　　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

（20文字 × 20行）

00203

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 折笠太規　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、大震災の時には、保育園にいました。地震がきたときは、また、小さな地震かと思っていました。そしたら、とても大きな地震でした。強いゆれが長く続きました。そのときは、あせっていて、どうしたらいいのか分かりませんでした。けれど、先生たちが声をかけてくれました。ぼくは、保育園でひるねをしていました。なので、地震がきたときは、とてもびっくりしました。そして、部屋の物は、どんどんたおれていきました。とてもびっくりして、とても心配しました。けれど、家に帰ったら、物が全部たおれていました。そして、地震がきたときに、先生たちが部屋の物がたおれてきたときに、すぐになおしてくれました。そして、物がたおれてきたときは、一度、園庭にひなんしました。園庭の土には、ひびがはいっていましました。これからも、地震がきたら、ひなん場所を決めて、ひなんしたいです。

(20文字 × 20行)

00204

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星野 愛佳　　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私が6歳の時、東日本大震災が起こりました。2時46分、その時間はまだ私の通っている保育園では皆で、お昼寝をしている時間でした。私が起きた時、先生や皆は輪になってかたまっていました。寝起きの私には今、何が起こっているのか分かりませんでした。そしたら、大きな揺れが起こりました。たなの上に乗っている物は全て落ち、校庭には地割れが起きていました。すぐに向かえが来て、家に帰ったらお皿が割れていて、水槽が割れて中に入っていた水がこぼれていたりと大変な事が沢山ありました。水は水道から出ないし、ガスも使えませんでした。そしてようやく元の生活が出来る様になりました。テレビには、地震で家がこわれて家に帰れない人達がうつっていました。今でも家に帰れなくて、苦しんでいる人がいます。そして、大切な人、大切な動物とはなればなれになってしまって悲しんでいる人達がいます。だから、これからは明るく楽しい未来があると思います。

（20文字 × 20行）

00205

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 橋本 乃愛　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

わたしは、福島県にはもともといなく、ちがう県から転校してここの福島県にやってきました。わたしがきたときこの第一小学校は、大きなじしんで学校も校庭も使えなくなり、仮せつ校しゃで勉強をしていました。けれどもこの学校はにぎわかでした。

1人1人の児童がい、しょうけんめい未来をみつづけたからです。わたしはこの仮せつ校しゃで1年と少し勉強をしました。

そして、新校しゃができました。みんな大よろこびでした。わたしもよろこびました。

けれども、東日本大しん災をも、ともわずら、てしま、た所は、まだわたしたちの学校のように復興はすすんでいませんでした。

わたしにはあのときのことは少ししかわかりません。けれど、復興への想いはあります。これからどんどん新しいたてもの外でき、そしてどんどん人がやってきてくるのをまちつづけていきたいと思いました。わたしは、この福島県が第二のふるさとです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大木規 勇弥　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、東日本大震災のときにようち園にいました。そしてみんなで帰えろうとしたときに、東日本大震災がおきました。園庭にみんなで逃げなんをしました。目のまえの家がこわれているのを見ました。でもようち園がこわれなかったからあんしんしました。東日本大震災の10分後くらいたってからお母さんがむかえにきてくれました。でも家にかえってからも地震がつづきました。いつもだったらじいちゃんがかえってくる時間なのにかえってこないからお母さんがでんわをしてもでないからすごくしん配でした。そのあと1時間くらたってからかえってきました。その時は、うれしかったです。でも、もうかえってこないのかと思っていました。今は、地震は、ないことわないけど東日本大震災みたいな地震がおまないからうれしいです。あと東日本大震災は、にどと見たくないと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 志村 友花　年齢 11歳　職業・学校名 須一小

「東日本大震災の体験談と復興の思い」

志村　友花

私は、東日本大震災を体験しました。

体験した時は、6さいでした。

じしんがきた時は、まだ何がおきてるのか、あまりわかりませんでした。

ほいく園にいました。先生たちがあわてて、みんなのことをひなんさせたりしていました。

みんな、お家のんがむかえにきていました。

でも、私のお母さんは、とおい所で、お仕事をしていたのでむかえにこれませんでした。

なので、お母さんのいもうとがむかえにきてくれました。みんなが泣いていたのでびっくりしました。私は、1年生になってようやくわかりました。

復興への思い

東日本大震災のせいで町がめちゃくちゃになっちゃったのでがんばってほしいし、自分たちも、ちゃんとごみとかをそのへんにすてないで分別することを、心がけたいです。

（20文字 × 20行）

00208

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

ぼくは、東日本大震災時は、保育園で昼ねしている時でした。そしてぼくは、少しゆれていたのに気づきおきた時に、東日本大震災がおきました。それでぼくたちはひとまず外に出ました。そして1人だけ大震災がおきてもおきない子がいました。そして先生がおれめきました。こしてそとに出しました。その時は、みんなその子のこと笑っていました。だけで、地震がでんで大きくなっていき、泣きだす子もいました。だけでぼくとかにおりかたたいきくんとかは、ふうふうにしゃべっていました。だけで、大地震がおこって、2へ3分たったあとに、外が地震れしてきました。そのときのじょうきょうは、大きいもうふをかぶされていました。そして、みんなのかおがまっかえにきて、兄きょうだいがえにいました。だけで、その学校は、もうボロボロになっていました。だけで、くずれているんではなくて、まどや中の物が、外とかにとびでていました。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名　五十嵐みなみ　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川第一小学校

　あの、東日本大震災から約5年もたちました。私はあの時、幼稚園生の年長さんでした。ちょうどその時、おふろをしていました。おばあちゃんの「みなみ、みなみー」と呼ぶ、ろうかで聞こえたことのない音が、テレビとケータイの緊急がうなりひびき、なにがおきたのかまったくわかりませんでした。しかし家がすごくゆれて、家の中の物がたおれ、やっと地震だとわかりました。私はおばあちゃんと外に出ました。そして、車の中に一ときひなんしました。何ども何どもゆれて、とてもこわかったです。水も、まったくでなくなり、大変な毎日でした。ある日じゃ口をひねった時、お水がちょろちょろとでて、家族みんなで大喜びしました。その時私は、水の大切さを知りました。
　この東日本大震災で、わ[illegible]が原発問題による、風評被害が早くなくなることを、願います。

（20文字 X 20行）

00210

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木邑唯　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

わたしは東日本大震災の時、ちょうどようち園バスで帰っている時の事でした。その日バスに乗っていた人数は女子4人男子5人くらいがバスに乗っていました。わたし達は、いつも通り先生や友達とお話を楽しんでいました。その時です、急にバスがゆれはじめバスのまどから見えた外のこう景は、道路にだんだんひびわれていき10mくらい先の電柱がたおれていきました。それはとてもおそろしい光景でした。バスにいた年小の女の子は、大泣きでした。そして少しゆれがおさまったのでバスは発車して家に着きました。家の中は物が落ちていてひどい状態でした。わたしも家のかたづけを手伝いました。わたしは、なぜか泣きたくなりました。でも涙をこらえました。そして少し時期があいてもテレビで大震災の事をやっているので心がズキズキします。でもこの震災で家族をなくした人はもっとつらいと思います。わたしは家族がいるだけで幸せだと思うので家族を大切にします。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

00211

氏名 久下陸　　年齢 11歳　職業・学校名 須小

ぼくは、東日本大震災が起きた時、保育園の年長組でした。地震が起きて、けいこう灯が落ちてきて、物がこわれ、とてもこわかったです。お母さんが、泣きながらむかえにきたです。ぼくはとても安心しました。お父さんと妹のことを心配して家に帰って全員無じだったので、もっと安心しました。その日、海の方では、津波がおきており、あっちの方では、ぼくたちのほうより、ずっとたいへんなのだなと思いました。テレビで津波の映像を見て、ものすごいくわかったです。

今は、復興がすすんで建物がなおったりたか台をつくってまた、東日本大震災がおきたら、なあとそうぞうすると、不安でしょうがなかったです。地震は、こわいなあと思いました。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名　小針愛子　　年齢　11　歳　職業・学校名　須賀川市立第一小学校

私は東日本大震災が起こった日、まだ五才でした。友達とおにごっこしていると、いきなり地しんがきて、みんなで外にひなんしました。大きい地しんが起きた後にもずっと、よしんがつづいていました。よしんがおわるとみんなでバスにひなんしました。私の保育園ではけが人はいませんでした。あまり泣く子もいませんでしたし、家もひがいを受けなかったのでそれほど地しんはこわいものではないなと思っていました。でもテレビで津波がおたにことを知り、地しんはとてもこわいものなんだと知り、その後お兄ちゃんが小学校、私がもうすぐかようはずだった小学校がこわれ、校庭もぐちゃぐちゃになりました。地しんがおわってもほうしゃせんがあり、外で遊べなくなりました。地しんから五年たった今年、校舎が完成しました。まだこうれていない地いきもあると思うので、一日でもはやくふっこうしてほしいなと思います。

（20文字 × 20行）

00213

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 武藤直滉　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

わたしが東日本大震災をけいけんしたのは まだようちえんのころでした。

わたしは、お父さんがいる日だったので、ようちえんをはやく帰りました。そして家でプリンセスのDVDを見ていました。その時きゅうにすごくゆれはじめ、お父さんにつくえの下に入ってといわれました。そして入っていると、だんだん強くなり、つくえの下じゃきけんだと思い家の外へにげました。家の外に出てからも、じしんは2分くらいつづきました。そして、ここからはあまりきおくにないのですが、かわらがおちたりして、とてもい、たん家に入ろうということはできないじょうきょうでした。そして、やっと家に入ると、トイレのゆかにあながあいていて、ビー玉をおくところがるくらいかたむいていました。わたしのけいけんは以上です。

わたしはこれくらいのひがいですみましたが、中には、たいせつな、たん、物を失なったたくさんいると思うと忘れられません。

(20文字 × 20行)

00214

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 円谷さくら　年齢 10 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

のように、心もとなくなりました。

しかし、地震が起きてから、すぐに、学校の先生の指示で、校庭に集まりました。

そこで、先生が、「みんな、ここに集まって。」と言いました。

その時、私は、「家族は、どうなるのかな。」と思いました。

しばらくすると、お父さんが、迎えに来ました。

私は、お父さんの車に乗りました。

私は、家に着くまで、ずっと、家族のことを考えていました。

家に着くと、お母さんが、「よかった。」と言いました。

私は、家族のことを考えていました。

家の中は、ぐちゃぐちゃになっていました。

でも、家族みんなが、だいじょうぶだった。

そして、地震の後の生活は、とても、不便でした。

（20文字 × 20行）

00215

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤俊志　年齢 10 歳　職業・学校名 須賀川第一小学校

ぼくが小学校に入る直前に東日本大震災が起きた。ぼくは初めて大きな地震を経験した。とても怖くて、みんな生きているかなと心配だった。ぼくは覚えていないけど、その後しばらく、少しの音にも驚いたり、こわがったりしていたそうだ。

3年前、福島の復興のために県庁に応えんにきていた福岡の職員さんが、ぼくのために福岡からオオクワガタを飛行機でもってきてくれた。そのクワガタは今も生きていて、福島を応えんしてくれているような気がする。福島には全国から職員さんが家族と離れて不便な生活をしながら、応えんにきてくれていると県職員の母から教えてもらった。

地震で壊れたぼくの学校は、今年新校舎ができた。多くの人達の力があって今がある、だからぼくは、感謝の気もちを忘れない。

ぼくは将来、地震に強い建物を造り、災害が起きた時には、福島を応えんしてくれた人達のように役に立てる建築士になりたい。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 加藤 [illegible]　年齢 10 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私は東日本大震災が起きた時、6才でした。私は水ぼうそうで休んでいました。すると、突然ゆれて、何が起きたのか、私は分かりませんでした。ゆれがおさまったら、すぐ外にひなんしました。そして車に乗り、お姉ちゃん迎え一小に向かえに行きました。すると、一小の校舎はひびが割れていて、ガラスも全てわれていました。校庭は地割れで、校舎、校庭は使えない状態で、こわいと思いました。4月からは、新ト学期です。入学式、一学期の間は、二小で過ごしました。二学期からは、仮設校舎に移りました。夏はとても暑く、冬はとても寒かったです。今年の二学期からは、楽しみにしていた、新大黒町校舎です。体育館もあり、とてもきれいな校舎です。私たちは、3階で勉強しています。とてもかいてきな校舎です。このりっぱな校舎を建ててくれてうれしいです。

(20文字 × 20行)

00217

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木大翔 年齢 10 歳 職業・学校名 須賀川一小

ぼくは東日本大震災が起きた時、保育園の年長組でした。地震が起きて、けいこう灯が落ちてきて、物がこわれ、とてもこわかったです。お母さんが、泣きながらむかえにきて、ぼくはとても安心しました。お父さんと妹のことを心配して家に帰って全員無じだったので、もっと安心しました。その日、海の方では、津波がおきており、あっちの方ではぼくたちのほうより、すっとたいへんなのだなと思いました。テレビで、津波の映像を見てものすごくこわかったです。

今は、復興がすすんで、建物がなおったり、たか台をつくって、また、東日本大震災のようにはなってほしくないようになりました。が、げんぱつの近くは、まだ家に帰れない人や、死んだ家族が行方不明だったりと、まだ復興のすすんでいないところがたくさんあります。おせんした土のしょりなど、こっちよりさきんでいます。はやく、震災の前のように、もどってほしいです。

(20文字 × 20行)

00218

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 田中館 嘉斗　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、震災のときは年長でした。地震が発生したとき、ぼくは家にいました。そのときは何が何だか分からなくておばあちゃんたちがあわててました。

そして、震災の後、家の外へ出られなくなりこのときは、ゲームを持っていなかったのでつまらない毎日でした。

でも、お兄ちゃんがいたので遊べるときはいっぱい遊びました。だけどこのときのお兄ちゃんは、小4なので勉強もしなくちゃいけないので遊べない日もありました。

それから、いっぱい不便なことがいろいろありました。学校はこわれてかわりに二小で勉強することにもなって、外でも遊べなくなくなるなどのことがありました。

建物などはなおってきているけどげんぱつなどの問題を早くかいけつしてほしいと思っています。

（20文字 × 20行）

00219

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 羽月優花　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私は、ようち園から帰ってきて、弟といっしょにるす番をしていました。一人の弟はテレビを見ていてもう一人の弟は昼ねをしているとき私もテレビを見ていました。そしたらあの大じしんがおきました。私は二人の弟といっしょにもうふでくるまりました。じしんがおさまってもうふからでてみると、本だなの本やシーディーなどがおちていてお皿が分れていました。私はとてもこわかったです。

お母さんが帰ってきていっしょにお姉ちゃんの学校に行きました。その学校はくずれていました。私は、ちゃんとこの学校にかよえるのかしんぱいになりました。私は仮校しゃで勉強をすることになりました。はやくきちんとした学校に行けないかなぁと思いました。

あたらしい学校ができたのはきょうりょくしてくれた地域の方なのでかんしゃの気持ちを持って生活しようと思いました。

300字

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

00220

氏名 鳴原 恵　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川一小

東日本大震災での災がいでひさいしたまちは、つなみで家などがながされてしまい、かせつじゅうたくでのくらしをまならなくなってしまいました。その人たちは、いまだかせつじゅうたくにすんでいます。その人たちの中には、家ぞくをなくしてしまった人もいます。ほうしゃせんでいえのあったところに行けない人もいます。だから、一こくもはやく復興するためには一人一人のちからでこつこつと復興にたずさわっていくよりはやくのかいぜんをすることだと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

00221

氏名 佐藤 [illegible]　年齢 11歳　職業・学校名 [illegible]市立 第一小学校

僕が幼ち園の年長の時に東日本大震災がおきました。その時丁度、インフルエンザが、はやってて、学級閉さで僕は家にいました。母は弟をむかえに行っていて、僕はゲームをしてすごしていました。母が家に帰ってきたしゅんかんに地震が来ました。すぐにこたつの中にもぐりましたがあまりにも地震が大きくて外ににげ出しました。外に出るとくらの一部がおもいっきり落ちてきて怖かったです。地震が終わったら僕は市役所のちゅう車場で車の中ですごしていました。自衛体の人達が塩おにぎりをつくってくれてとてもうれしかったです。れる刃時は僕たちの所へ来てくれて遊んでくれました。それを見てすごいと思いました。僕たちの周りは元どうりになったけどテレビとかを見ていたりするとまだ少ししか復興していない地域もあって一日でも早く復興できたらいいなと思いました。

(20文字 × 20行)

00222

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 星 実咲妃　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ようちえんのころに、あそんでいたら、あの大きなじしん東日本大震災がおとりました。ようちえんにあったものがほとんどこわれてしまいました。家のかべもこわれてしまいました。ガラスがすべくわれていたのでけがすべくたいへんでした。なので、こまっている人をたすけられるようにしたいです。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

ぼくは、2011年3月11日のひるは、保育園にいました。ちょうどお昼ねの時間でした。もう完ぺきにねていた時でした。ぐらぐらっという地しんが来、そして、じわれぼくはがしぶちのてにちょうどねていました。先生たちがみんなをいっせいにおこしました。まだ僕たちよりもちいさい子たちは泣いてしまいました。すぐに外に出て避なんしました。辺りがいつもとちがう風景でした。地面は、ゆれていました。5分間の長い地しんでした。むかえが来て家に帰ったら、家具とかぜんぶがくずれたりしていました。そのためぼくたちがまちのぜんぶのたぶ学校にもいけませんでした。学校に行ったのは、ごれでは、なく三日でした。一日は、いろんなとこが大きなダメージがあってこわれていました。でも翌年の月日がたちぼくたちは、せっせいも良く新しい一日にいろんなひのおうえん助けをつけて1日に行けるようになりました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

00224

氏名 星野 志度　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川第一小学校

ぼくは、6才の時に、東日本大震災に合いました。その時は、ほいいくえんでお昼ねをしていました。そして、すごいしんどうで目をさましてふるえていました。電気はゆれて、たなにのっている物は落ちていきました。みんなふるえて、先生までふるえていました。ないている子もいました。それから4年がたちました。今年目は、学校もこわれて、行きたかった一小の校しゃに入れず、かせつこうしゃで、約三年ぐらいすごしました。たけど今は、たくさんの人のおかげで、もとのだいたくぎょう校しゃで、広い校しゃで、広い校ていで、楽しく、外であそべてうれしいです。校しゃの中でも、広いろう下と一学年へ六学年までひと学年に一つ学年スペースがあります。このようにとってもいいかんきょうで、勉強をおこなっております。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 熊澤 和 年齢 11 歳 職業・学校名 須賀川第一小学校

東日本をおそった大震災

私が、年長さんの時に東日本大震災が、おきました。私は、お母さんの車の中でけいけんしました。車の中は、大きくゆれ、デニーズの前の交さ点のしん号きは、止まって、だいこんざつした事を、今でも、覚えています。

そのころの、私は、年長さんだったので、そつえんの時期でした。そつえん式は、ようち園ではできずはちかくの公ぶんかんでやる事になりました。

私が入学するはずだった須賀川一小は、大震災でこわれて、つかえなくなってしまい、二小で入学式をする事になり、二小で一学期すごすことになりました。二年が人

三学期からは、かせつ校しゃに、うつりました。

それから、四年がたちました。私たちは、五年生になり、今すごしているところは、あたらしい、学校です。震災は、かなしかったけど、今はたのしくすごしています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 村上和真　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、年長のとき、東日本大震災に合いました。今でも忘れられない出来事でした。

東日本大震災の時、ぼくは、保育園でねていました。そのとき、震度6の大地震が来ました。地震は長く、みんながこわいおもいをしていました。地震が落ちついたら、すぐ着がえろといわれて、着がえました。帰ったら家の中が、あれてました。学校もこわれました。だから、始業式は、となりの学校でやり1学期はとなりの学校で過ごしました。2学期は、仮校舎で過ごしました。仮校舎では、4年間いました。その、4年間で、いい思い出がたくさんできました。し

5年の2学期から、新校舎にいけるようになりました。新校舎は、エレベーターやテラスがあります。新校舎が出来てよかったです。

これからは、大地震が起きないでほしいです。だからふんかをさせないように、してほしいです。

(20文字 × 20行)

00227

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 [illegible] 年齢 11 歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、東日本大震災がおきた時は、栄光ようち園の年長さんでした。あの東日本大震災つうしょう二十二は、ぼくが入るはずだった須賀川市立第一小学校をこわしてしまったのです。土色面は木不、まども木不、ピアノはたお不、せなもたお不よした。そ不で、そ号じの一、二、三年生は二小へ、四、五、六年生は一中で学びました。少しの月日が流れ、二学期からなみ木町の校しゃに全員そろって、しゅ業式をむかえました。そして、4年の月日がたって、今の大黒町校しゃになりました。東日本第震災の当時ようち園児だったぼくが来年になると、小学校の最高学年になるなんて、早いなと思いました。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙　00228

匿名希望

私は、東日本大震災のとき、ようち園の年長組でした。そのとき私は、ようち園にいたので、家族や家が心配でしたでも、家も大丈夫だったし、家族も大丈夫だったので安心しました。でもその後は、あまり外には行かないでずっと家にいました。私は姉がいるので少しはこわかったけど、姉がいたおかげで、安心しました。まだそのときは小さかったので、外でなにがおきているのかわかりませんでした。でも東日本大震災の後も、何回も、何回もじしんがおきたのですごくこわかったです。でも今は、じしんがあんまりおきないので、良かったです。

これからは、もっと、自分でできることを精一ぱいがんばりたいです。

（20文字×20行）

00229

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐久間 陽花　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私はあの日、ようちえんの年長さんでした。私は、その日インフルエンザでようちえんを休みテレビを見ていたその時です。あの東日本大震災がおきました。私は何がおこっているのかが分かりませんでした。その時、お母さんが、「つくえの下にかくれて」と言われてかくれました。だんだんおさまってきたときに、お母さんが2階にきて、いっしょに下へいってまたつくえにはいりました、じしんがおこりました。私は、じょうきょうを知りにわくなりました。そして、私たちが入る須賀川市立第一小学校がこわれてしまいました。そして、2小を借りて、勉強を始めました。次に、かせつ校舎で約4年間すごしました。やっと、今、校庭もプールも校舎も完成しました。私は、今までのきょうふをわすれることはできないと思います。この今の校舎ができるまでに色々の人たちが協力してくれました。感謝したいと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 千葉巫咲　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川第一小学校

東日本大震災がおこったとき、ようち園の年長でした。ようち園の、帰りのバスにのり母のつとめているしょくばのたくじしょに、行きました。昼ごはんを食べ、お昼をしていたら、あの東日本大震がおこりました。物は、ぜんぶおちてきて、地面はゆがんはいってしまました。わたしは、あのときのこわいたいけんを今でも思いだします。4月から、入学する学校がこわれてしまいました。だから入学しきを二小の学校をかしてもらいなんとか入学しきができました。新がっきは、二小の校舎をかりました。1 2 3年生は、二小にかよい、4 5 6年生は第一中学校にかよいました。なみきちょうに、かもつ校舎ができあがりました。かもつ校舎にひっこしてから一生にべんきょうができました。4年がたちやっとわたしたちの校舎ができました。東日本大震災を体験したから、ひなん訓練とかわしっかりおぼえて、すこしでも自分の命を守れるようにしたいと思いました。

（20文字 × 20行）

00231

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 田村結衣　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

わたしは東日本大震災が起きた3月11日に家でパズルをしていたときに、東日本大震災が起こりました。時計がこわれ、ドアもたおれ、物は、おちました。そんな中、お母さんは、私をだっこして、たけのこの下に来て、お姉ちゃんの帰りを待っていました。（お姉ちゃんは小

お姉ちゃんや、家族全員がそろったら、田んぼ（野菜を育てる）ビニールハウスで、過ごしました。そのあとビニールハウスから出て、周りを見てみたら、田んぼの土がわれてました。おそるおそる家の中に入ったら、中はめちゃくちゃちらかっていました。そして、たまたま車が動いてました。必要な物をかかえ、私のふるさと浜通りから約一時間、この須賀川に来ました。最初は、どこなのかわかりませんでした。復興への想いは、もうこのような震災が起きないで、また住めるようになりたいと思いました。

15行

（20文字 × 20行）

00232

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 北山　遥　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私は、まだ、ようち園の時に東日本大震災をけい験しました。私は、その時、お母さんと一しょにお店にいました。じ震が、きた時は、外に出てお母さんとお店の人に囲まれました。その時は、びっくりして、下しかむけませんでした。その後も、よ震が続いてこわかったです。家に帰ると、かべには、たくさんひびが入っていたり、電気が、落ちそうだったり、ガラスがわれていたり、次また、同じようなじ震がきたら、家がどうなるんだろうと、こわかったです。ようち園は、ひ害がそんなになくて、良かったなぁと思いました。私が、入学する時学校は、校庭が、くずれたり、校しゃ内も、ダメでした。

私は、テレビを見て、がんばって、じ震に負けないように、立ち上がろうとしている人を見てすごいと思いました。私も、今度から少しでも、復興できるようにがんばりたいです。

（20文字 × 20行）

00233

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺諒太郎　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、東日本大震災の時、ようち園の年長でした。その時はようち園からちょうど帰ってきた時、お母さんのけいたいから、けいほうの音楽がなって、その後大きなじしんが起きました。その時ぼくとお母さんは外ににげました。外の様子は、近所の家のうえきばがすべてわれて、じめんにひびが入っていました。その後、お兄ちゃんも、家から出てきてにげました。もう一人のお兄ちゃんは、学校にいたので、おにいちゃんがむかえに行きました。

ぼくはその後、お母さんの車にお兄ちゃんたちとずっと居ました。

少し時間がたち家の中に入ったらどのへやにもひびが入っていました。あと、水道も出ないし家がボロボロになりました。

その後車でおばあちゃんの家に行って水などをもらいました。

ぼくは、じしんがおこらないでほしいと思いました。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 [illegible]　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

2011年3月11日、ぼくは、ようちえんの年長でした。

外で、プラコップに乗っている時に、ガタガタとすごくゆれた。ようちえんのホームの先生が、みんな集まって、と、で、中、部屋に集まりました。なぜ、「危険だから外へでないでください」と。今度は、外へでました。

しばらくすると、友達のお父さんが、おかえりに来て、帰っていきました。ぼくは、急いで、父さんに、帰って行く友達をみていました。今、思うと、これは、気持ちがいけんだと思います。

また、しばらくすると、ぼくと、妹を、父さんが、おかえりに来てくれて、ほっとしました。

車の中には、仙台も乗っていました。震災は、がれきでもうえていました。その時には、中は、家族の人すう、家族みんなが無事で、元気に、笑って、すごせる事が、幸うれしい事を、知りました。今、からも、家族が、仲が、笑って、過ごせる事が、楽しみです。

（20文字 × 20行）

00235

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 [illegible]川舟左也　年齢 11歳　職業・学校名 順賀川市立第1小学校

東日本大震災の体験談

ぼくは、東日本大震災を体験してこわいと思いました。ぼくは、ようち園に行ってころだったので、なにがなんだか分からなかったので混らんしていました。じしんがなる前は友達と遊んでいて、急にじしんがなったからびっくりしました。夜は、カップラーメンを食べて常ににげられるように1階でジャンバーのままねました。家の中のタンスやテレビがたおれていて水はでてこなくなってすごくたいへんでした。その日は夜になるまで車の中で過ごしました。電気はつかなかったのでろうそくを、つけて明るくしていました。その日は、お父さん、お母さん、おじいちゃんがすぐに帰ってきました。おばあちゃんがその日ちょうじいたのでよかったです。本当にこわかったです。

（20文字 × 20行）

00236

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 宇賀神木多人　年齢 10歳　職業・学校名 須賀川第一小学校

ぼくは、東日本震災のとき、ようち園にいました。

そして、地震のときになにがなんだかわからなくて、とってもこわい体験をしました。

それで、地震がおきているとき、こわかったし、わからなかったし、いかだなと思ったりはおくとまらないかなと東日本大震災のときに思っていました。

そして、今になっても、東日本震災のことはよくおぼえています。

この、東日本大震災は、もうにどと東日本大震災がおきてほしくないです。

この、体験をいかして、東日本大震災がまたきたら、けがをしないで、れい儀をしたいです。

(20文字 × 20行)

00237

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木　あゆ　　年齢 10 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

平成23年3月11日に東日本大震災が発生しました。その時私は、保育所でお昼ねをしていて、突然の激しいゆれにパニックになり泣き叫ぶことしか出来ませんでした。しばらくしてお母さんとお姉ちゃんがむかえにきてくれて顔を見るとホッとしたのを思い出します。

家に帰ると、食器だながたおれていて、コップやお皿が割れて下に散らばっていました。

とにかく今まで見たことがないひどい状態でショックでした。

その春に一年生になる私が入学する小学校は地震により壊れて通うことが出来ず須賀川二小で入学式をやりました。小学校生活をほぼ仮設校舎で過ごしましたが、現在は大黒町に新しい校舎が出来て、毎日元気に通っています。地震から、4年半年以上が過ぎましたが、その間、復興に向けて、まわりの人達は大変な思いをしてここまで来たと思います。

自分には何が出来るのかをよく考えて、少しでも役に立てるようにしたいと思います。

（20文字 × 20行）

00238

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名　石井 凡　年齢 10 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

わたしは、東日本大震災のとき、年長でした。1～2週間前から、震度3～5の地震がありました。そして、東日本大震災という大きな地震がおきました。

楽しみにしていた、学校がこわれてしまいました。入学式は、2小でやりました。2小には、1学期だけいました。2学期からは、仮設校舎にうごきました。4と5と6年生とも会えて、仮設校舎でも、学校があることがとても、うれしかったです。仮設校舎では、4年間過ごしました。ことしの2学期から、新校舎に通えるようになりました。とても、きれいな校舎です。

校舎ができたことも、復興の一つだと思います。テレビで、みてても、少しずつかわってきたと思います。これからも、どんどんかわって、もとの福島県よりも、もっといい福島県になるといいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大走心 和花奈　年齢 10歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大しん災がおこった日、わたしは保育所の年長さんでした。そして、大しん災がおこるちょっと前におひるねをしていました。すると、グラッというゆれを感じました。そして、そのグラッというゆれといっしょにとても大きい地しんが発生しました。わたしはその時、まだふさかったのでどうすればいいのか分からなくなってしまいました。でも、その時、保育所の先生がたった一人でわたしたちを守ってくれたのをとてもよく覚えています。それをわたしは、「愛の勇気」とよんでいます。理由は、あの先生は、あんな大変な状態でも、みんなをはげましたり、安心させたりするなど、自分にはできないことをたくさんしていました。それは、愛と勇気を持っているからこそ、あの人にはできたんだなと今改めて思いました。そして、わたしたちのことを守ってくれる方々にとても感謝しています。そして、これからは、自分たちが、地いきの方々におんがえししていきたいです。

(20文字 × 20行)

00240

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 近藤[illegible]　年齢 10 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは東日本大しん災では、近くのセブンイレブンにねていました。すると、とっぜん大きな大きな大きな大きなあの東日本大しん災がやってきました。ニュースのまどがラスはすべてわれ、つなみはやってきて、家にはぼくの大好きな本に金魚がピチピチはねていて、げんばつじこがおきて、学校はぼっこはこのぐらしゃぐしゃのドカドカのぐしゃぐしゃのぼりぼりでした。入学するときには、二小でやりました。

その次にプレハブのかせつ校舎に入りました。

かせつ校舎もそれなりによかったです。

次に、今の新しい校舎ができました。このときはちょうれしかったです。しんさいで何もかもくずれましたがこのようにちゃんとふっこうしてこれたのはぼくはすごいと思います。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三浦 [illegible]　年齢 10歳　職業・学校名 須一小

（20文字 × 20行）

00242

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 蒼空　年齢 10歳　職業・学校名 多賀城市立笠神小学校

東日本大震災が発起した時は保育園でおひるねをしているときでした。地しんがおきたのでみんなであつまってテラスに行って毛布を頭の上にかぶせていました。何回も移動をしました。1回目はテラスで2回目は、たがんステージに行きました。

東日本大震災でわたしが入学する学校がこわれてしまい入学式は二小でおこないました。九月から二小にいました。2小にいたのは、1年生の1学期だけでした。その次に、仮設校舎に移転しました。1年生の2学期が5年生の1学期の終わりまでいました。そして今は、まちにもどった大黒町の校舎に移転しすごくきれいな学校です。私が大黒町にいるのは一年ちょっとなので思い出を残したいです。

(20文字 X 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小山桜歩　年齢 11歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私は、東日本大震災のとき、ようち園にいて、もうすぐ小学校に入学するところでした。しかし、午後二時四十六分、東日本大震災が起きました。私は外にいて、こわくて部屋に入りました。そこでは、本だながたおれたりしてとてもあぶなかったので、みんなで外に出て、地震がおさまったら、部屋に入りました。そこに、お父さんがむかえに来てくれて、私はほっとしました。

入学するはずだった小学校はこわれて使えなくなりました。他の学校で入学式をして、しばらくは、その学校に通いました。そして、その後に、仮設校舎で勉強することになりました。そして、5年生の二学期、大黒町に新しい校舎ができました。今まで、入学から須賀川第二小学校に通い、その後、あまり広いとはいえない並木町の仮設校舎に通ったりと、とても大変でした。しかし、今年の二学期、大黒町の広くて快適な新校舎で勉強することができるようになり、とてもうれしいです。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

00244

氏名 石川海斗　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一

はぼくが、よって園の年長の時、3月11日のようち園バスで家に帰って来た時、東日本大震災がおきました。その時ぼくは、何がおきたか分かりませんでした。バスはたきくゆれて、お母さんは、地面がれれたしん間を見たそうです。家はだいじょうぶだったけど、他の人の家では、水道が止まってトイレにも行けなかった話を聞いたので、ライフラインの電気や水道やガスが大事だと思いました。

浜の方では、津波で行方不明の人がまだたくさんいると、ニュースで知りました。それを聞いて、家族の人もかわいそうだし、本人もかわいそうです。

家は、まだどんな場所を決めていないので、この機会に、家族で、よく話したいと思います。もう二度と東日本大震災のような大地震がおきてほしくないです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙　00245

匿名希望

私がようちえん年長の時、東日本大震災がおとずれました。私はその時ようちえんがえりのバスの中にいました。その時、大きなじしんがおこりました、それとともに、バスも大きくゆれました。バスの中にいた友達で泣きさけぶ人もいました、私は、なにがなんだかわからなくなってしまいました。家に帰ると、食器が落ちて、がうスの物はわれてしまいました。そして、その日から水が使えなくなってしまいました。外にもでれませんでした。1年生の入学式は、第二小学で行い、勉強もそこでしました。二学期にかせつ校しゃができ、五年生一学期しゅうりょうまでつかいました。そして二学期大黒町校しゃが完成しのびのびと生活できるようになりました。マーチングも思うぞんぶんできるようになりました。今この校しゃができたことにとても感謝しています。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

東日本大震災が起きた時、ぼくは千葉県に住んでいました。幼稚園の友達と車に乗っている時に地震が起きてゆれるたびに地面から水があふれました。その時お父さんから「10mの津波が来るからにげろ」という電話が来て車でにげました。その日は体育館で一晩すごしました。お父さんは自衛官なので何日も帰って来なくてとても不安でした。

その年の夏にお父さんの転勤で福島に引越しました。一緒に住むはずだったおじいちゃんのお家は放射線量が高かったのでぼく達は須賀川に住むことになりました。でも外でのびのび遊べなかったので、夏休みや冬休みには「ふくしまキッズ」という保養キャンプに参加しました。いろんな県にいって自然の中でのびのび遊ぶことができました。たくさんの人がぼくたちのためにいろんなことをしてくれてとてもうれしくて感謝の気持ちでいっぱいになりました。ぼくも大人になったら自分から進んでボランティア活動をしたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 [illegible] 年齢 11歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

二〇一一年三月十一日、私はようち園から帰って来て、おままごとをして遊んでいました。私は一番年上で弟も妹もいます。妹は、まだ一才か二才でした。みんなで遊んでいたらお母さんのケータイにエリアメールが来ました。「にげるよ」と言うお母さんの声で私たちはにげました。げんかんを出る時強いゆれにおそわれました。

二〇一一年四月私たち、四人は、お母さんのいっかにれなんしました。おとうさんは、仕事で秋田県のいっかにはこれませんでした。れなんの理由は、放射のうです。二年後に帰って来た時は、もうたいじょうぶでした。私はげんぱつをうごかしてほしくありません。そしてもうこわい体験をしたくありません。早く復興してほしいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 功介　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくは、震災のとき入学するはずだった校舎が、こわれてしまい、家から約四kmはなれたとなりの学校で夏まで勉強しました。それから仮設校舎で五年の一学期まで勉強をしました。その校舎はせまくてプールや支達と話せるスペースがありませんでした。でも新しい校舎は、学年多目的ホールや校ホールというスペースがありそのスペースは学年集会やこてきや宿泊の話あいをしたり、休み時間に友達と話せるスペースがあります。来年の夏にはプールがあるので新しくできたプールに入るのが楽しみです。

ぼくは、サッカーが大好きです。だから休み時間や放課後にサッカーをしています。将来は、福島でサッカーに関わる仕事をしたいです。でもいまは、いっしょうけんめいに勉強もサッカーもしてがんばりたいです。

（20文字 × 20行）

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤芹菜　　年齢 11 歳　職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私は、しんさいの時は、ほいくえんでねていました。そのときは、先生がみんなをおこしてくれました。その時は、すごくこわかったです。でん気があちてきたり、まどなどがあかなくなり、さいごには、まどをわるしかなかったのです。まどのはへいなどが、おうとんのほうまでとんできました。ものすごくこわかったので、みんな、大さわぎをしていました。そのあと、わたしには、おばあさんとおねえさんがおかえにきてくれました。そのあと、おかあさんとごうりゅうしました。いえにかえると、げんかんは、あきませんでした。おかあさんが、げんかんをけとばしました。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 安部隆光 年齢 11 歳 職業・学校名 須賀川市立第二小学校

00250

2011年3月11日の東日本大震災がおこった時ぼくは、まだようち園のようち園生でしたのようち園にいたときに、東日本大震災が起きました。ようち園の道具などがたおれ、ぼくたちは、先生たちといっしょに外に出ました。外に出た後に、ようち園バスに入りました。そして、ようち園バスで家の人のむかえをまちました。むかえが来て家に帰りました。家は食器だながたおれ、食器がわれ、食器だなはこわれました。泳ぐができなくなりました。テレビは見れました。けれども震災のニュースしかやっていませんでした。四月に一年生になれました。本のにゃーで入学し勉強、二学期は仮校舎で勉強して、今年の二学期に新校舎ができました。今年よりも、来年、さ来年と復興が早くいくようていいと思いました。

(20文字 × 20行)